

# ハーブ「ベチバー」に脚光

消臭や除菌に役立つという熱帯地方原産のハーブ、ベチバーが注目されている。福岡県では、国産化を目指して栽培したり、エキスを抽出して消臭剤を開発したりして、魅力を広める取り組みが進んでいる。(高梨忍)

## 熱帯原産 消臭や保湿効果

ベチバーが栽培されていると聞いて、同県八女市星野村を訪ねた。道路沿いの小さな畑に、高さ1メートルほどの細長い葉を茂らせた植物が密集している。「あれがベチバーです」と同市に住む片山恵理さん(48)が教えてくれた。

星野村ではこの畑のほかにも、片山さんの弟の渡辺裕一朗さん(43)と、親戚にあたる地元の「高木農園」が山あいの畑計約1畝でベチバーを育てている。成長す



星野村で栽培されているベチバー

## 八女で栽培 商品化

有名ブランドの香水の原料としても使われている。「見た目は地味なのですが、大変な力を持っています」。片山さんが褐色を帯びた細長い根を示しながら語った。

栽培のきっかけは、2012年7月に村を襲った豪雨だった。村は土砂災害で田畑が崩れ、コメやお茶を栽培していた高木農園も大きな被害を受けた。

ベチバーは土に深く根を張る性質があり、根の深さは2〜3メートルに達することもある。この性質を利用して、インドネシアでは土壌保全

の科の多年草で、インドネシアなど東南アジアを中心に分布している。現地では古くから防虫効果などが知られ、すだれや敷物に織り込むために栽培されてきた。

のため農地や水辺に植えられることが多いという。渡辺さんと高木農園がインドネシアの例をヒントに、田畑の土壌や景観を守るために活用しようと栽培を開始。片山さんが商品化を手がけることになった。

根を切らないように掘り、丁寧に水洗いしてから乾燥させた後、水と一緒に熱する。立ち上る水蒸気を冷やすと、蒸留水ができる。佐賀県武雄市産のレモングラスを加えた商品も出しており、専用サイト(https://sanosa-japan.com/)で購入できる。

ベチバー畑や蒸留所を見学する会も開催。関心を持つ人が全国各地から集まるという。「ベチバーの魅力を多くの人に広めたい」と片山さんは意気込む。



星野産ベチバーの乾燥根を手に、魅力を語る片山さん

## ホテル、医療機関で活用

福岡県久留米市のベンチャー企業「アカル」は、市の第3セクター「久留米リサーチ・パーク」と九州大と共同で、ベチバーに関する研究を行った。

様々な実験で明らかになったのが、ベチバーの根が持つ高い消臭作用だ。臭い取りに使われる活性炭や、カテキンなどを配合した市販の消臭剤よりも高い効果を示した。大腸菌やブドウ球菌の増殖を抑え、ゴキブリやダニ、蚊といった害虫を寄せ付けないことも判明。研究に携わった九州大の清水邦義准教授(46)は「古くて新しい、無限の可能性を秘めた天然素材」と語る。

アカルの親会社で、消臭剤の製造販売などを手がける「アルサ」(福岡市博多区)は、東南アジ

ア産ベチバーのエキスを配合したスプレータイプの消臭剤を開発(写真)。自然な香りが受けて、全国各地のホテルや旅館で清掃用や客室の備品として用いられている。医療機関、介護施設などにも納入しており、2016年には、デザイン性や機能面などに優れた県内企業の商品を表彰する「福岡デザインアワード」で優秀賞に輝いた。専用サイト(https://www.vetiver.co.jp/fs/naturalherb/c/)で一般向けにも販売している。



## ホテル、医療機関で活用